

モルドバ（2025年度）

- [国・地域別情報トップページへ](#)
- [各国・地域情勢](#)
- [在モルドバ日本国大使館](#)

1. 2024年度日本語教育機関調査結果
2. 日本語教育の実施状況
3. 教育制度と外国語教育
4. 学習環境
5. 教師
6. 教師会
7. 日本語教師派遣情報
8. シラバス・ガイドライン
9. 評価・試験
10. 日本語教育略史

1.2024年度日本語教育機関調査結果

初等教育			中等教育			高等教育			学校教育以外			全体の合計		
機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数
0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	126	1	3	126

（注）2024年度日本語教育機関調査は、2024年9月～12月に国際交流基金（JF）が実施した調査です。また、調査対象となった機関の中から、回答のあった機関の結果を取りまとめたものです。そのため、当ページの文中の数値とは異なる場合があります。

[「海外日本語教育機関調査」のページへ](#)

2.日本語教育の実施状況

全体的状況

沿革

モルドバにおける日本語教育の歴史は、NPOのモルドバ日本交流財団が設立された2002年5月に始まる。同財団で日本語講座が開講されるとともに、モルドバ国立大学外国語学部で受講を希望する同学部の学生を対象に日本語講座が開講されていた時期もあったが、現在は同大学を拠点としつつ中高生や社会人も含む市民向け講座が行われている。

当初、同財団では隣国のルーマニア人日本語教師などが指導にあたっていたが、2004年より常駐の日本人の日本語教師が教鞭を執るようになった。

2025-2026年のスクールイヤーでは、同財団の講座において、158名（2025年10月時点）が日本語を学習しており、講義が行われている。

また、同財団は2014年から年に一度、「文化祭」を開催しており、書道や茶道などのデモンストレーション、

学生たちによるさまざまな日本文化紹介などが行われ、日本文化に触れることのできる機会を提供している。過去の文化祭では 3,000 人以上のモルドバ人が足を運び、人気を博している。

背景

モルドバは日本から遠く、文化交流は盛んとは言えないが、モルドバにおける日本及び日本文化に対する一般的関心や日本語教育熱は高まっており、生け花、折り紙、柔道、空手、合気道、剣道などの日本文化愛好団体も複数存在している。1991 年 10 月にはモルドバにおける初の日本文化週間が開催され、以降ほぼ毎年生け花のデモンストレーションをはじめとする各種伝統文化のワークショップや日本文化関連行事が開催されており、多数の参加者を集め好評を博している。日本は 1993 年にモルドバに医薬品やワクチンを供与する対モルドバ支援を開始して以降経済協力を含むさまざまなレベルにおいて日本とモルドバの関係を深めつつあり、中でも日の丸のステッカーがついたトラクターがモルドバ国内で多数使用されていることはモルドバ国民に広く知られている。2017 年以降日系企業が当地に工場を合計 4 つ開設し数千人を雇用している。ウクライナからの避難民支援のため日本の N G O も当地で活動し、両国間の交流が深まっている。今後日本語を使える人材がより一層求められ、日本語教育の重要性が更に高まる可能性がある。

2015-2016 年には、日本とモルドバの両国に大使館が設立された。2022 年には日本・モルドバ外交樹立 30 周年を迎えた。

2025 年 9 月の議会選挙において、E U 加盟路線が確実となったことから、今後欧州諸国を始めとする投資や改革の更なる加速が期待され、日本との二国間関係においても、一層の発展が期待される。

特徴

学習動機としては、日本の伝統文化や最新技術、アニメや漫画を中心としたポップカルチャー、戦後の経済復興などへの興味から経済への関心、日本語への語学的な興味などがある。

当地在住の日本人、また、日本語を学べる場所や日本企業の数が極めて少ないため、学習者が生の日本語に触れる機会や将来活用できる機会が非常に限られている。特に地方都市においてはインターネット以外に日本語を学習する機会は全くないと言える。

最新動向

2005 年より毎年 1 回、首都のキシナウ市においてモルドバ日本交流財団の主催によりモルドバ日本語弁論大会が開催されていた。2012 年からロシアで行われている「モスクワ国際学生日本語弁論大会」にも毎年参加し、2013 年にはウクライナで行われた「第 1 回 GUAM 諸国合同日本語弁論大会」に初出場を果たした。現在、ロシアでの弁論大会が行われていないこともあり、モルドバ日本語弁論大会も中止している。2005 年より近隣国（ウクライナ、ルーマニア）で実施されている日本語能力試験に参加しており、2022 年には初めてキシナウ市で日本語能力試験が開催された。日本語能力試験の受験者数、日本語講座受講者数はいずれも増加しており、日本語学習への関心が増加傾向にある。

2026 年には、上述の「文化祭」が第 10 回目を迎えることから、モルドバ日本交流財団の活発な活動が期待される。

教育段階別の状況

初等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

中等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

高等教育

モルドバ国立大学外国語学部の第三外国語として日本語を選択した学生を対象に、モルドバ日本交流財団が日本語講座を開講していた時期もあったが、現在は行われていない。

学校教育以外

モルドバにおける唯一の日本語教育機関であるモルドバ日本交流財団において、9月から翌年5月までをスクールのイヤーとして計4年間の日本語教育が行われている。基本的には4年間で日本語能力試験N3取得を目指すコース設計。年によってはN2取得を目指すクラスが開講される。毎年100名以上の生徒・学生・社会人が初級から中級まで9クラス（2025年時点）に分かれて日本語を学習しており、日本語だけではなく日本文化の授業も実施されている。

3.教育制度と外国語教育

教育制度

教育制度

4-5-2（または3）制。

小学校が4年間（7～10歳）、中学校が5年間（11～15歳）、高等学校が3年間（16～18歳）となっている。そのうち義務教育期間は、小学校、中学校の9年間である。

モルドバは2005年以降ボローニャ・プロセスに参加していることから、大学への進学には、3年間の高等学校教育を了し、バカロレアを取得することが原則となっている。

教育行政

すべての教育機関は、教育・研究省の管轄下にある。

言語事情

公用語はルーマニア語である。その他、ロシア語が広く使用されている。

外国語教育

小学校2年（8歳）より第一外国語を履修。言語は、各学校の教師の数などによって英語、フランス語、ロシア語、ドイツ語、スペイン語、イタリア語、トルコ語が学ばれている。

中学1年より第二外国語を履修（ただし各学校の教師数などの条件によって異なる）。第二外国語として学ば

れている外国語は第一外国語に同じ。

外国語の中での日本語の人気

外国語学習者の中では、特に、英語、フランス語の人気が高い。日本語学習者の動機は、日本文化への関心、欧州諸語とは全く異なる言語への興味などである。最近では、日本のアニメやドラマなどの日本のポップカルチャーに関心を持ち、日本語学習を始める人も多い。

大学入試での日本語の扱い

大学入試で日本語は扱われていない。

4. 学習環境

教材

初等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

中等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

高等教育

日本語教育は実施されていない（下記参照）。

学校教育以外

モルドバ日本交流財団では、主に JF の教材寄贈プログラムにより供与された教材や、教師が独自に作成した教材を利用している。

使用している主な教材は、『みんなの日本語Ⅰ、Ⅱ』スリーエーネットワーク（スリーエーネットワーク）、『日本語能力試験 日本語総まとめ シリーズ問題集 』佐々木仁子ほか（アスク）、『合格できる日本語能力試験 シリーズ』浅倉美波ほか（アルク）。

IT・視聴覚機材

モルドバ日本交流財団内に、2005 年、2015 年、2016 年に日本万国博覧会記念機構から交付された助成金でパソコンやコピー機などが供与された。また、2019 年には草の根文化無償資金協力のスキームでパソコン、インタラクティブホワイトボード、プロジェクター、テレビなどが供与され、授業や学習者の自習にも使用されている。

5. 教師

資格要件

初等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

中等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

高等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

学校教育以外

モルドバ日本交流財団では、4年制大学の主専攻あるいは副専攻で日本語教育を修了した者または日本語教師の資格を有する者で、1年以上の外国での教師経験を有する者を資格要件としている。

日本語教師養成機関（プログラム）

日本語教師養成を行っている機関、プログラムはない。

日本語のネイティブ教師（日本人教師）の雇用状況とその役割

モルドバ日本交流財団において日本人の日本語教師1名が勤務し、主に初級から中級の日本語講座の講師を務めている。

教師研修

モルドバ国内での研修会は行われませんが、JF ブダペスト日本文化センターが主催する中東欧日本語教育研修会に参加している。

6. 教師会

日本語教育関係のネットワークの状況

日本語教育関係のネットワークはない。

7. 日本語教師派遣情報

国際交流基金からの派遣

国際協力機構（JICA）からの派遣

JF、JICAからの派遣は行われていない。

その他からの派遣

2019年にアイセア（ICEA: International Cross-cultural Exchange Association）から派遣

8.シラバス・ガイドライン

統一シラバス、ガイドライン、カリキュラムはない。

9.評価・試験

モルドバ日本交流財団では、日本語能力試験のN3～N5を学習到達目標としており、毎年12月に同財団を実施機関として実施される日本語能力試験を受験している。また、同財団内の授業において、学期末（2学期制）に試験・評価を実施している。

10.日本語教育略史

2002年	モルドバ日本交流財団設立・日本語講座開設 モルドバ国立大学外国語学部学生対象に日本語講座開設
2005年	第1回モルドバ日本語弁論大会開催
2006年	モルドバ国立大学日本語講座休講
2012年	「モスクワ国際学生日本語弁論大会」初出場
2013年	「GUAM 諸国合同日本語弁論大会」初出場
2014年	モルドバ日本交流財団による第1回「文化祭」を開催
2015年	モルドバ国立大学日本語講座再開
2018年	モルドバ国立大学日本語講座休講
2022年	第1回日本語能力試験開催

情報更新についてのお願い

この国の日本語教育に関する情報がありましたらお知らせくださるようお願いいたします。
なお、内容の確認のため、こちらからご連絡する場合があります。

Eメール：kuniketsu@jpf.go.jp

(メールを送る際は、全角@マークを半角@マークに変更してください)